

透視下神経ブロック法

大瀬戸清茂 編

＜書評者＞ 菊地臣一（福島県立医科大学理事長兼学長・整形外科）

痛みを、症状としてではなく、診断として扱うようになったのは 1980 年代である。痛みそれ自体を治療の対象とする時代が到来したのである。この結果、ペインクリニックが創設された。

そのときから約 30 年が経過した今という時代、痛みに対する認識も劇的に変化を遂げている。まず、最新の科学は、痛みをできるだけすみやかに取り除くことの大切さを立証した。次に、痛みを取することは治療の目的ではなく、痛みの除去は健康な生活にすみやかに復帰させるための手段であるという認識が確立された。第三に、痛みの治療効果の向上には、患者と医師との信頼関係、そして placebo 効果（心理的効用）が深く関与していることもわかってきた。第四に、痛みの増悪や遷延化には、従来われわれが認識していた以上に早期から、心理・社会的因子が深く関与していることが立証された。

このような新知見が提示されていく中で、痛みをすみやかに除去

することのできるペインクリニック手技の代表である神経ブロックの果たす役割は大きい。ただし、神経ブロックの手技は決してやさしいものではない。安全に実施するには局所解剖の知識の習得は必須である。しかも、それだけでは、現在の医療環境の下では不十分といわざるを得ない。確実に、しかも安全に手技を行うための一手段として、近年、神経ブロックは透視下で広く行うのが一般的になってきた。

透視の手段として広く普及している X 線透視、CT、MRI、そして、最近では超音波などの近代装置を駆使しての透視下神経ブロック手技を解説した成書は、残念ながら今まで刊行されていなかった。この度、神経ブロックで使用する装置ごとに、各章を独立させた構成での透視下神経ブロック法の実際を提示する手技書が初めて発刊された。一般に、手技を提示、あるいは解説する成書は、その記載の仕方の難しさもあり、隔靴搔痒の感があるものが少なくなかっ

た。幸いに、本書は豊富な解剖図と術中の画像を多数掲載しており、極めて実践的な手技解説書になっている。神経ブロックを習得したいと思っている初心者にも、「自分にもできる」と思わせる簡易にして明快な構成になっている。この「わかりやすさ」には、治療の第一線で活躍している執筆者を揃えたことも大きく寄与している。執筆陣をみると、ペインクリニックのオールジャパンという顔触れである。

痛みを取り扱う医療従事者にとって神経ブロックは、自分の武器として、治療を行う上での選択肢の一つとして持っておくことは極めて有用である。神経ブロックの手技の習得に際して、本書は時宜を得た刊行といえる。初心者には技術やノウハウの習得を、経験者には安全な、そして確実な手技の再確認をするうえで本書の価値は高い。

9,500 円という本書の値段は安くない。しかし、それだけの価値は十分あり、推薦に値する。

●B5 頁 336 2009 年
定価 9,975 円
(本体 9,500 円＋税 5%)
[ISBN978-4-260-00797-9]
医学書院 刊